



2026年5月27日

各 位

会 社 名 千代田化工建設株式会社
代表者名 代表取締役社長 太田 光治
(コード番号 6366 東証スタンダード市場)
問合せ先 総務部長 佐 伯 晋
(TEL 045-225-7777)

(差替) 2026年5月11日付「経営現況報告」の差し替えについて

当社は、本年5月11日付にて適時開示いたしました「経営現況報告」につきまして、内容の一部に修正すべき事項がございましたので、改めてお知らせいたします。

以 上

2026年3月期(FY2025) 経営現況報告

2026年5月11日

千代田化工建設株式会社

(証券コード：6366)

社会の“かなえたい”を共創する
エンジニアリング
Enriching Society through Engineering Value

AGENDA :

1. 中東情勢の当社事業への影響と対応状況
2. 「経営計画2025」の進捗状況
3. 遂行中案件の状況
4. 受注の状況

1. 中東情勢の当社事業への影響と対応状況






中東情勢の当社事業への影響と対応状況

当社を取り巻く状況	<ul style="list-style-type: none">中東地域における地政学リスクの高まり制裁・外交関係の動向によるプロジェクト環境の不透明感の高まり中東地域におけるエネルギー関連投資判断の慎重化・遅延リスク
遂行中案件の状況	<ul style="list-style-type: none">中東で遂行中の2案件（カタルNFE, 中東石油・石油化学案件）は物理的な被害無し海上輸送の代替として、空輸や陸路を使って資機材搬入などを継続順次工事を再開しており、現時点ではほぼ以前の水準まで回復済み
業績への影響	<ul style="list-style-type: none">26/3月期実績にはほぼ影響なし27/3月期予想への合理的な影響額算定は困難遂行案件において影響が発生しうる場合、不可抗力（Force Majeure）条項等の契約内容に基づき、追加コストなどの回収を目指し、業績影響を極力回避する方針
リスク管理の状況	<ul style="list-style-type: none">3月2日 緊急対策本部を設置日次で現地の状況を逐一把握する体制を構築し、適宜適切な判断を実施
今後の見通し	<ul style="list-style-type: none">材料・資材の不足や価格高騰など、国内案件へも影響が波及する可能性復旧需要などへも取り組み、エネルギー供給の早期安定化へ貢献

2. 「経営計画2025」の進捗状況

中期経営計画「経営計画2025」2025年度 進捗

中計目標の達成に向け、変革を着実に推進

重点取組	海外既存大型プロジェクトの 着実な遂行	<ul style="list-style-type: none">・ 米国ゴールデンパス：第1系列の建設・試運転完了。1stLNGの生産達成・ カタール NFE：設計・調達は終盤に入り、建設工事が進行中 中東情勢影響により一時的に工事を停止するなどの影響が生じたものの、その後沈静化により、工事を順次再開	 P6
	海外プロジェクト 取り組み改革(受注方針)	<ul style="list-style-type: none">・ 中東においてリスク抑制を講じた中規模案件を受注・ 成長推進本部を設置し「全社営業」を推進する体制を整備	 P7
	国内プロジェクトの 収益拡大	<ul style="list-style-type: none">・ 出光興産(株)から全固体電池実用化に向けた固体電解質大型パイロット装置建設のEPC業務を受注・ 固体電解質の量産化に向けた戦略的パートナーシップも締結	 P8
	事業共創の拡充	<ul style="list-style-type: none">・ 国内：植物バイオファウンドリ事業立ち上げ・細胞/再生医療分野への進出で事業開発に向けた基盤構築が進む・ 海外：石灰石を用いた大気直接CO2回収技術を開発するHeirloom社へ出資 小規模アンモニア生産設備を製造するAmmobia社へ出資	 P9
	分厚い中核人財層 の形成	<ul style="list-style-type: none">・ 中核人財の人財像と育成方針を再整備し、経験付与を軸とした育成運用を開始	 P10

海外既存大型プロジェクトの着実な遂行

米国およびカタールにおいて大型LNGプラント建設プロジェクトを着実に遂行中

Golden Pass LNG プロジェクト



Courtesy of Golden Pass LNG

- 第1系列 (Train 1) の建設・試運転が完了
- Golden Pass LNG Terminal LLC が主導するスタートアップ作業が進められ、第1系列において1st LNGの生産を達成
- 北米における重要なLNG 開発案件の一つである本プロジェクトの遂行における大きな節目を通過
- 第2系列および第3系列の建設・試運転作業の継続に向けて、引き続きプロジェクトの遂行を継続

North Field East (NFE) LNG プロジェクト



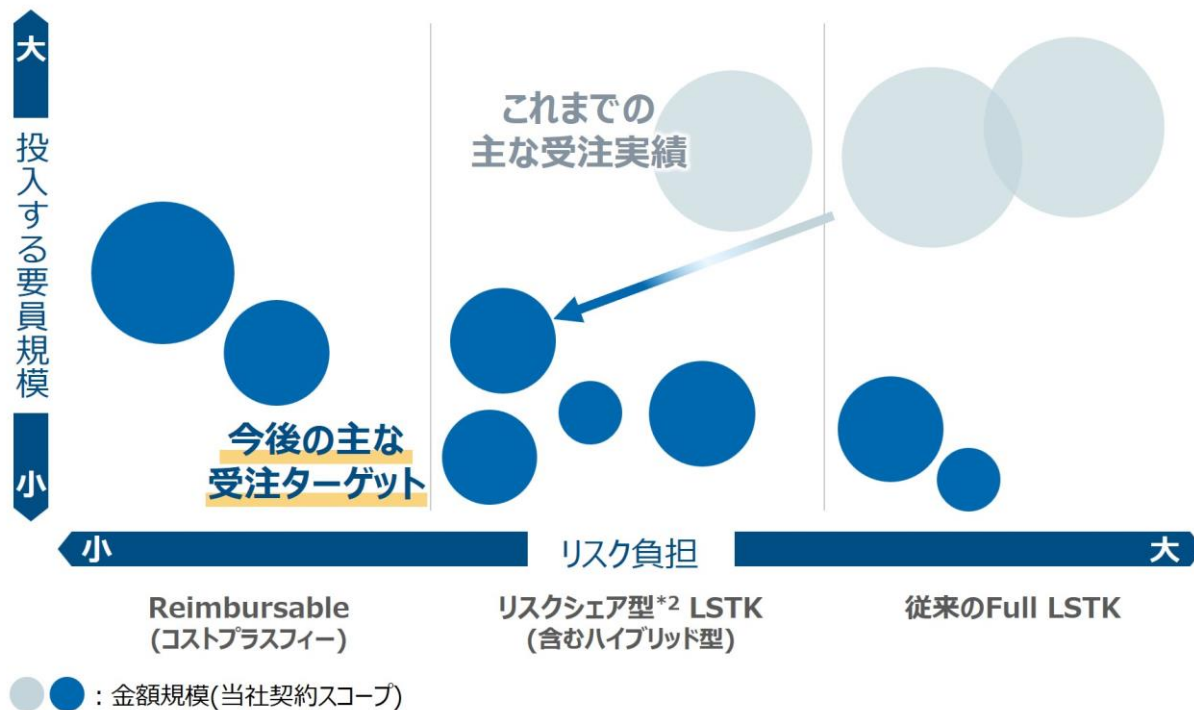
3Dモデル完成予想図 Courtesy of Qatar Energy LNG

- 年産800万トンのLNGプラント4系列の増設工事を遂行中
- 設計・調達は終盤に入り、建設工事が進行中
- 中東情勢の緊迫化により一時的に工事を停止するなどの影響が生じたものの、その後沈静化に向かい、工事を順次再開

海外プロジェクト取り組み改革（受注方針）

成長推進本部を設置し「全社営業」を推進する体制を整備

海外プロジェクト受注ターゲットのイメージ



方策

- 1プロジェクト当たりの当社リスク抑制・分散
(パートナーとのリスクシェア等)
- LNGプロジェクトへの新たな取り組み方を追求
(超大型LSTK*1案件以外への取り組み、当社の強みであるプロセス設計に特化した提案等)
- リスク負担の徹底的な見直し
(地域・顧客特性に応じたReimburse契約など)

2025年度の取り組み

- 中東においてリスク抑制を講じた石油・石油化学関係の中規模案件を受注
- 成長推進本部を設置し「全社営業」を推進する体制を整備
26年4月発足。
先端技術とエンジニアリング力を掛け合わせた差別化できる知見を備え、新たな案件の獲得、ポートフォリオ変革、事業共創の拡充をリードすることを目指す

*1 LSTK : Lump Sum Turnkey (固定契約金額による一括請負)

*2 リスクシェア型 : 例 : 工事Lump Sumリスクの回避、パートナーとのリスクシェア、インフレ調整等

国内プロジェクトの収益拡大

固体電解質大型パイロット装置建設のEPC*業務を受注



大型パイロット装置完成イメージ（青枠が該当装置）

- 出光興産千葉事業所における全固体リチウムイオン二次電池（全固体電池）の実用化に向けた固体電解質大型パイロット装置のEPC*業務を受注
- 2027～2028年の全固体電池の実用化を見据え、出光興産がそのキーマテリアルである固体電解質の製造および量産化に向けた技術確立を目的として、パイロット装置を建設するプロジェクト
- 全固体電池は、主に電気自動車における航続距離拡大・充電時間の短縮・安全性向上を実現するため、自動車および電池メーカー等で開発が進んでおり、次世代型電池の本命
- 本プロジェクトで建設される固体電解質大型パイロット装置の生産能力は年間数百トンを見込む

固体電解質の中長期の量産化に向けた戦略的パートナーシップを締結



出光興産の固体電解質の量産・事業化に向けたロードマップ（出典：出光興産）

締結の背景	出光興産の固体電解質事業に係る業務を継続的に遂行してきたこと、および当該業務を通じて得た当社のプロジェクト遂行能力に対する信頼と評価
これまでの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> • 固体電解質の小型実証設備第1プラント能力増強に関するEPC業務を遂行（2025年完工） • 中間原料である硫化リチウムの大型製造装置のEPC業務も2027年の完工に向け、遂行中
	<ul style="list-style-type: none"> • 2024年に本件基本設計業務を受注・遂行 • 本プロジェクトにおいて、固体電解質大型パイロット装置のEPC業務を遂行し、2027年中の完工に向け取り組む

* 設計(Engineering)、調達(Procurement)、建設(Construction)

事業共創の拡充

共創のネットワークを広げ、事業共創の基盤と強みを拡充

目指す姿

事業共創のパートナー

社会実装

顧客の構想段階から
事業化まで伴走支援

EPC
コントラクター

顧客要件を
満たす設備を納入

操業支援

設備保全のみならず
操業における価値向上
を支援

技術開発・事業開発

実証～商業化

事業運営

事業共創の基盤と強み



技術開発基盤



共創のネットワーク



豊富なEPC実績

2025年度の取り組み

細胞医療



SHINOBI
THERAPEUTICS

- iPS細胞由来免疫細胞の安定的かつ効率的な製造工程・技術の確立に関する共同研究を開始

植物バイオファウンドリ



植物バイオ実証設備の植物栽培室

- 子安オフィス・リサーチパーク内に実証設備を建設し、2025年6月に稼働開始

トヨタ自動車との協業



トヨタ自動車(株) 本社工場 水素パーク
(画像提供：トヨタ自動車(株))

- 5MW級水電解システム実証機の導入

スタートアップへの出資



(DAC技術)



(アンモニア製造技術)

分厚い中核人財層の形成

2025年度は中核人財の人財像と育成方針を再整理し、経験付与を軸とした育成運用を開始

2025年度の成果

- 中核人財の人財像／コンピテンシーを再整理
- 中核人財育成においてキーとなる経験を特定し、不足経験を計画的に補完する育成方針を確立

育成運用を開始

今後の施策

- 事業戦略に基づく育成・輩出に関するKPIを設定し運用
- 人財の配置・育成・モニタリングの循環を支える運営基盤を強化し、中核人財の計画的な育成・輩出を加速

育成運用の流れ

育成対象の明確化

人財像・コンピテンシーを基に育成対象を整理し、タレントマネジメントシステムを活用して不足経験を把握

社内複数領域で経験拡張

社内の複数領域への配置・異動を通じて経験を拡張し、不足経験を計画的に補完

伴走支援経験・社外経験の付与

顧客の構想段階から事業化までの伴走支援に資する経験に加え、必要に応じて社外経験を付与

モニタリング

育成状況を継続的にモニタリングし、次の配置・育成計画に反映

3. 遂行中案件の状況

主要遂行中案件の状況

◆主要遂行中案件一覧*1

案件	国・地域	受注時期	プロジェクトの概要	受注残高
NFE LNG	カタール	FY2020/Q4	<ul style="list-style-type: none"> 単一系列として世界最大規模となる年産800万トンのLNGプラントを4系列建設中 中東情勢のリスクを踏まえた対応を講じつつ、現地での作業遂行中 	1,000億円以上
石油・石油化学 関係	中東	FY2025/Q1	<ul style="list-style-type: none"> 石油・石油化学関係プラントのEPC業務 中東情勢のリスクを踏まえた対応を講じつつ、EPC遂行中 	500億円以上～ 1,000億円未満
ゴールデンパス LNG	米国	FY2018/Q4	<ul style="list-style-type: none"> カタールエナジー、エクソンモービルが出資する北米における重要なLNG開発案件の一つ JVパートナーの米国McDermott社と共に、3系列のLNGプラント建設に関するEPC業務を遂行中 第1系列は、2026年3月に建設および試運転を完了し、1st LNGの生産を達成 	
LNG 受入設備	日本	FY2024/Q4	<ul style="list-style-type: none"> LNG受入基地の能力増強に係るプラント設備のEPC業務 2029年度上期完工に向け計画どおり遂行中 	
先端素材 生産設備	日本	FY2023/Q3	<ul style="list-style-type: none"> フッ化ビニリデン樹脂生産設備モノマー工程増強に係るプラント設備のEPC業務 2026年完工に向け遂行中 	100億円以上～ 500億円未満
バイオ医薬品 CDMO*2 開発・製造施設	日本	FY2023/Q4	<ul style="list-style-type: none"> 顧客がバイオ医薬品CDMOの開発・製造能力拡大に向けて建設する施設における生産設備のEPC業務遂行中 	
硫化リチウム 大型製造装置	日本	FY2024/Q4	<ul style="list-style-type: none"> 硫化リチウムの大型製造装置建設に関するEPC業務 固体電解質の量産に向けたバリューチェーンの構築と全固体電池の社会実装に貢献 	
固体電解質 大型パイロット装置	日本	FY2025/Q3	<ul style="list-style-type: none"> 全固体電池の材料となる固体電解質の製造をおこなうプロジェクト 硫化リチウムの大型製造装置もEPC遂行中 	—

*1 表中に記載の見通しおよびスケジュールは計画に基づく予測であり、様々な不確定要因により変動する可能性があります

*2 CDMO: Contract Development and Manufacturing Organization(開発製造受託機関)

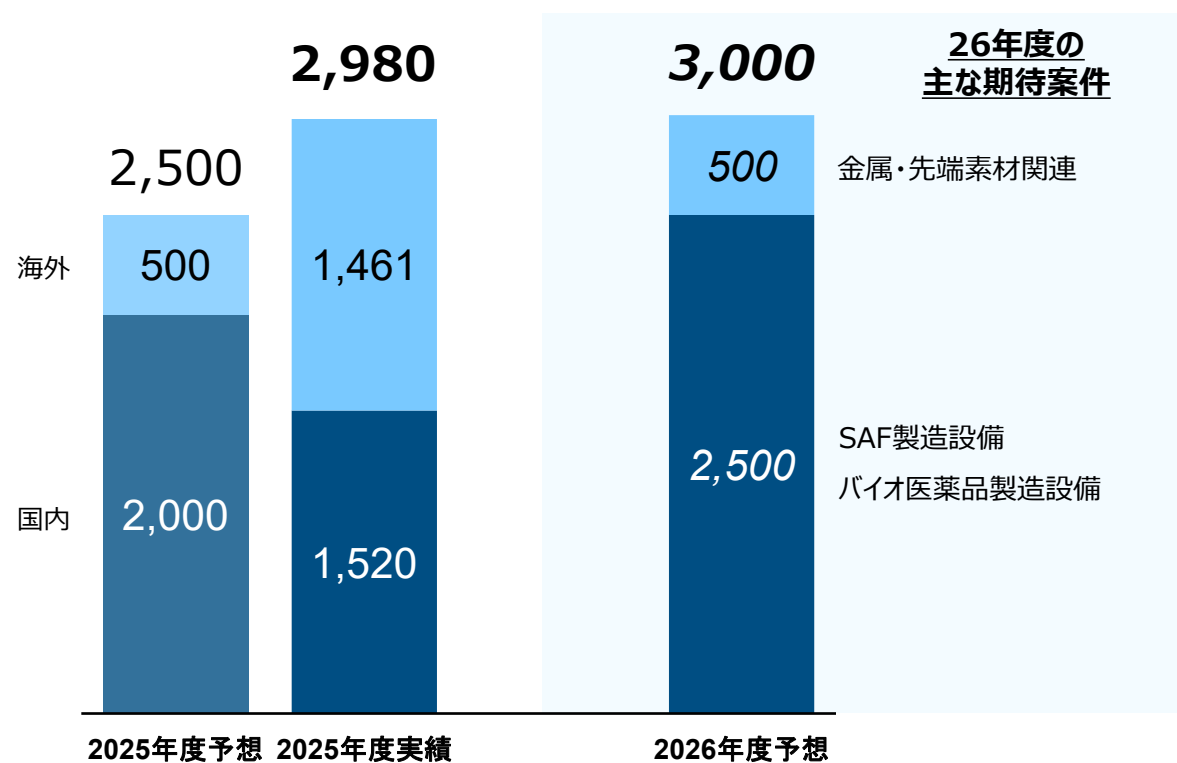
4. 受注の状況

受注/受注残高の状況

単位：億円

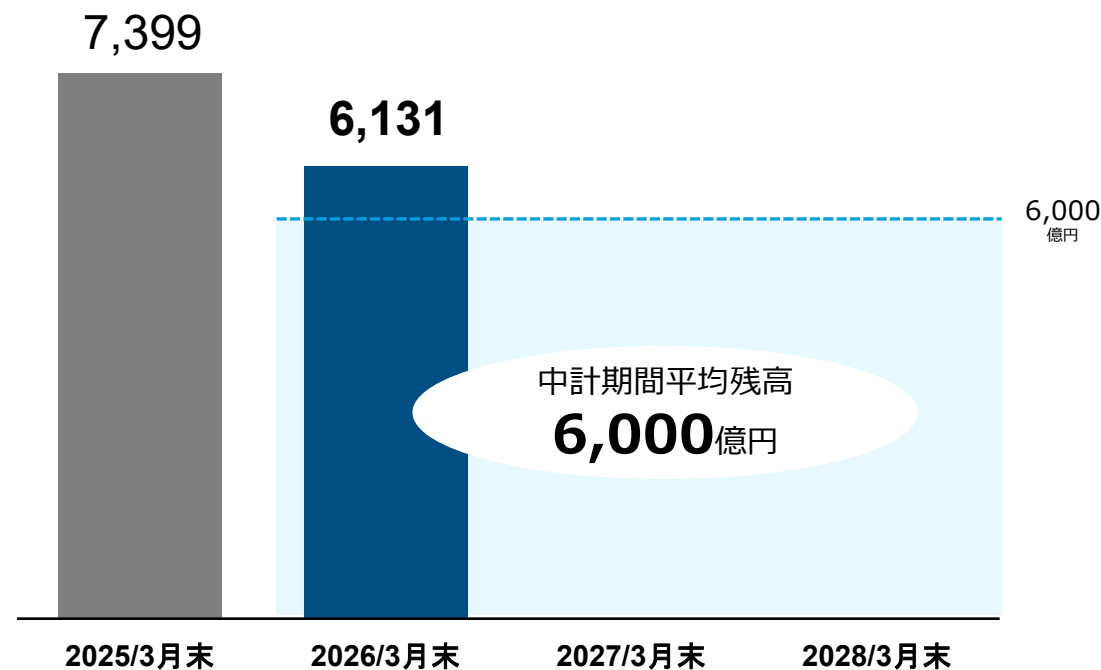
受注高

- ◆ 2025年度の受注高は**2,980**億円となり、期初予想を達成
- ◆ 2026年度の受注額は**3,000**億円を見込む



受注残高

- ◆ 2026/3月末の受注残高は**6,131**億円
- 主要案件の進捗により前期末比▲1,268億円の減少も、中計期間の平均受注残高目標に沿って推移



主な受注ターゲット

「経営計画2025」の累計受注計画 9,500億円(初年度実績：2,980億円)
達成に向けた主なターゲット

日本

4,000～
4,500億円

- ・SAF製造設備
- ・CCS (二酸化炭素回収・貯留)
- ・水素製造プラント・水電解装置
- ・蓄電設備
- ・先端素材製造設備
- ・バイオ医薬品製造設備 など

中東

1,500～
2,000億円

- ・石油・石油化学プラント増設
- ・LNGプラント増設 など
- ・復旧需要

米州

200～
300億円

- ・石油/ガス関連設備 (含む増設,改造)
- ・金属資源関連 など

アジア・豪州

200～
300億円

- ・石油/ガス関連設備 (含む増設,改造)
- ・金属資源関連 など

FY25実績
2,980億円

残り
6,520億円

※2026年度、2027年度の受注獲得に向け千代田化工建設グループで取り組んでいる主な案件

この資料には、事業戦略・本資料発表時における将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があり、予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。従いまして、この業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控えくださいますようお願いいたします。

【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

財務企画室 IRグループ

E-Mail : ir@chiyodacorp.com



© Chiyoda Corporation 2026, All Rights Reserved.

